

静岡県地域史研究会報

— 静岡県地域史研究会 —

第四十二回総会報告

第四十二回総会及び記念講演は、去る九月二十三日（土、祝日）午後二時より静岡市葵区のあざれあを会場に開催された。次第は次の通り。

一 総会

- (一) 議長選出
- (二) 会務報告
- (三) 研究誌報告
- (四) 会計報告
- (五) 会計監査報告
- (六) 新年度役員選出
- (七) 新年度の活動方針
- (八) 新年度の予算審議
- (九) その他

二 記念講演

「浜松城下町にみる都市空間の形成と変化―東海道の下町を地図から考える―」

講師 京都大学教授 山村亜希氏

総会は、森田香司氏の司会により始まった。小和田哲男会長の挨拶の後、議長に望月保宏氏を選出し、右記の次第にしたがって進められた。議事詳細については、後掲の通りである。午後三時から記念講演が行われ、午後五時に散会した。記念講演の要旨は、来年九月刊行する研究誌第十四号に収載する予定である。

二〇二二年度会務報告・研究誌報告・会計報告・会計監査報告

一年間の例会十回で計一一六名（平均十一・六名参加）↓昨年度より微増

- ・例会参加者は、一けたの例会は五回あった（十二月・一月・二月・三月・五月）。
- ・書評会ができた。（十一月）
- ・卒業論文発表会ができた。（十月、三月）

- ・県外報告者を依頼できた（五月）
- ・幹事の報告が少ない。
- ・会場はなんとか確保できたが、教育会館もなかなか予約が取れない。
- ・報告者、報告内容によって参加人数に差が出る。
- ・報告内容は、中世六、近世六でバランスがとれていた。
- ・地方史研究協議会との共同開催ができた。

※会計報告・予算等は三・四頁に掲載した。

会報の発行 二四五号〜二五〇号、計六号発行した。

歴史随想

第二四六号 家康の相婿牟礼郷右衛門
第二四七号 『大河ドラマ』に思う
小林輝久彦

森田香司
第二四八号 飯尾連龍妻お田鶴の方の虚実
小林輝久彦
第二四九号 名前（ことば）へのこだわり
太向義明

例会の開催

◆十月例会 十月十五日
静岡県教育会館地階C会議室
（二名参加）（卒業論文発表会）

遠江国原田・村櫛荘の半済と半済給人 佐藤公彦氏（専修大学大学院）

◆十一月例会 十一月十三日
沼津市立図書館（二十三名参加、ズーム参加者含む）

小田原近世史研究会編『近世地域史研究の模索』（岩田書院、二〇二二年）の書評会

書評者 松本和明氏・杉本寛郎氏
※地方史研究協議会との共同開催

◆十二月例会 十二月十日
静岡県教育会館（八名参加）

検地文言の成立について―検地目録・検地帳・検注帳をよむ―山田剛徳氏

◆一月例会 一月二十八日
あざれあ 4階1会議室（八名参加）

蒲原宿支配陣屋の変遷―蒲原陣屋から松岡陣屋へ― 厚地淳司氏

◆二月例会 二月十八日
三島市生涯学習センター（八名参加）

三島市の文化財 平林研治氏
三嶋大社と源頼朝 森田香司氏

◆三月例会 三月四日
静岡県教育会館（九名参加）
（卒業論文発表会）

遠江・駿河の狐憑き 野口琴葉氏（静岡文芸大四年）

近世後期豪農の格式と地域―浜松藩領有玉下村高林家を題材に―

小杉勇人氏（静岡大学大学院修士課程二年、人文社会科学比較地域文化専攻）

◆四月例会 四月二十二日

静岡県教育会館（十五名参加）

戦国期の駿河伊達氏・伊達忠宗に関する考察
千葉宏太氏

◆五月例会 五月二十七日

静岡県教育会館（六名参加）

（史料再考）明治3（1870）年菊間藩権現堂村「村法・民法」

―三河での服部純への考察を加えて―

横山鈴子氏

◆六月例会 六月十八日

ワークピア磐田（十六名参加）

浜松荘を一八〇年支配した三河吉良氏―新編西尾市史を読む―

小林輝久彦氏

◆七月例会 七月二十二日

静岡県教育会館（十八名参加）

松平信康事件再論
本多隆成氏

二〇二三年度役員

森田事務局長から新年度役員について次のように提案があり、全会一致で承認された。

顧問 本多隆成（静岡大学名誉教授）
会長 小和田哲男（静岡大学名誉教授）
事務局長（会誌査読）

森田香司（広沢小）

幹事（会計担当） 北村 啓

（清水桜が丘高）

幹事（会誌担当） 厚地淳司

（駒澤大学）

幹事 小川隆司（島田高）

幹事 前田利久（清水国際高）

幹事 柴 雅房（県立中央図書館）

幹事 坪井俊三

（浜松市文化財保護審議委員）

幹事 西田かほる（静岡文芸大）

幹事 岡村 龍男（豊橋市立図書館）

幹事 小林輝久彦（浜松西税務署）

幹事 望月保宏（沼津工業高）

幹事 鈴木将典

（静岡市歴史博物館）

幹事 貴田 潔（静岡大）

幹事 今村直樹（熊本大学）

会計監査 青木茂久

（焼津市歴史民俗資料館）

古文書講座講師）
会計監査 小川 勝

（静岡古城研究会）

昨年度より一名増え、今村氏を幹事とした。また会誌査読担当の名前は、査読の公平を期するため、外しましたが、査読は複数で行います。

また、会計監査には今まで担当していただいた土屋比都司氏が退任されたので、新たに青木茂久氏に担当していただくことになった。

二〇二三年度活動方針

新年度の活動方針について、森田事務局長より次のような提案が示された。
（例会の充実）

一例会 報告を充実させていく。会員全

員にメール登録を依頼していく。コロナ対策として、広い会議室を確保していく。当面懇親会は行わない。

年間十回の例会をきちんと行っていく。二月は東部例会で例年桑寿園内三島市郷土資料館をお借りしている。

六月の西部例会は今後浜松アクティシティ研修センターのみとし、磐田は地理的に不便なため止める。

三月は学生の卒業論文発表会の予定。例会をきちんとやっていくだけでなく、例会報告の内容を充実させていく。また、他地域にも報告者を要請し、多角的な視点と最新の研究成果の研究報告を進める。

また、静岡市歴史博物館等研究機関と連携して古文書見学会等も計画していく。

そして、最新の研究成果や他地域の研究者に積極的に声掛けして報告を依頼する。

（会誌第十四号の発行）

昨年同様、会誌担当厚地氏を中心に編集していく。査読は複数の幹事に担当してもらおう。従来の締め切りは五月末だったが、査読を複数にしたことにより、時間がかかることから、投稿締め切りを三月末とする。

（会報の発行）

年間六回の会報を発行するだけでなく、会報の内容を充実させる。なお、例会が一報告になったことにより、報告要旨が少なく紙面が埋まりません。したがって、報告者は今までより多く、十五字×六〇行×九〇行で書いていただきたいと思います。

※メール登録のお願い

kaji2011@kcd.biglobe.ne.jp

受け取り次第、森田の方より、返信します。それ以降は会報及び例会案内通知葉書はメールで送らせていただきます。よろしく願います。

なお、十月二十日現在で、会員の登録者は七五名です。未登録の方は右記森田のメールアドレスまでメールください。よろしく願います。

（会費納入）

昨年度は一〇八名の会費納入者であった。

二〇二三年度予算

新年度予算は北村啓氏から提案され、承認された。今年も振込用紙を同封しますので、振込をよろしくお願い致します。なお、繰越金（四頁参照）が、七十六万余円あることから、年会費を三〇〇〇円に値下げしても、当分会の運営に支障をきたさないことから、来年度から三〇〇〇円にすることを提案し、了承された。

その他（来年度総会について）

総会で以下のように提案し了承されました。

来年の総会には記念講演を依頼し、その分野は中世史とする。

【例会案内】

☆十一月例会

十一月二十五日（土）

午後三時

静岡県教育会館D会議室

「松平信康はいつどこで亡くなったのか」

―本多隆成氏よりの批判をうけて―

高橋陽介氏

「百年」のかたのことは間近きことと

晩年の今川氏真

小林輝久彦

「今川史料」（広島大学日本史学研究
室所蔵）は、明暦三年（一六五七）か
ら寛文元年（一六六一）の間に、今川

氏の本家である吉良義冬の次男義叙
が分家の東条家を立てるに際して今
川範英が作成したものと考えられ
る。ただし本史料は江戸中期の写本
で、原本も案文（下書き）であるとみ
られる。清書した正文は義叙に与え
られたのだろう。本史料の中に範英
自身の回顧記録があり、そこに祖父
の氏真が登場する。

それは慶長十七年（一六一二）か十
八年（一六一三）のことで、徳川家康
が鷹狩りのついでに江戸城西の丸で
越年した時、範英が十二歳くらいの
頃である。

このとき今川氏真は外孫の吉良義
弥と直孫の範英を帯同して、しばし
ば家康にお目見えした。当時の氏真
は江戸に居て、義弥と範英を後見し
ていたとみられる。その際、家康は
（足利）長氏と義継の時に吉良氏が
西条・東条に分かれたことを尋ねた。
そして義継の子孫である世田谷（武

蔵吉良氏）の蒔田氏の家に三河吉良
西条氏からたびたび養子に入ったと

聞いているが、それはいつの時代の
ことかとも尋ねた。

この問いに対して氏真は、「自分は
いま八十歳に近付きます。百年より
以降のことは、最近のことですが（百
年此方の事ハまちかき事）、一向に養
子のことは存じ上げません。ありえ
ないことはもちろんです。」と申し上
げると、家康も「自分の年齢も八十歳
に近くなつてきているのは氏真と同
様です。氏真がお聞き及びにないの
であれば、きっと間違いなのでしょう
う。」と落着いて終わったという。そ
して引き続き、吉良西条氏の吉良満
貞とその弟で別家である吉良東条氏
を立てた尊義（義貴）のことにも話が
及んだと記す。

「当代記」によると、家康は慶長十
八年九月十七日に放鷹をするために
駿河を立ち、同月二十七日には江戸
に到着し、二十八日と二十九日の二
日間鷹狩りをしたという。続いて家
康は十二月二日に江戸を立ち、駿河
に向けて出発したもの、途中で引
き返して江戸に戻って越年したと記
すから、範英の記憶とも一致する。

家康は天正十九年（一五九一）に蒔
田家当主である氏朝を謁見している
から、三河吉良氏から武蔵吉良氏へ

養子に入ったという話は氏朝から聞
いたのであろう。事実、永禄十年（一
五六七）に書写された「吉良系図」（大
平家文書）には、三河吉良氏から養子
に入ったことが記されているから、
家康もそれを踏まえて氏真に聞いた
のだろう。

しかし氏真はその事実を否定し
た。そして家康も氏真に更問い
はしなかった。

吉良氏のことも今川氏のこと
も、この百年の間のことなら自
分は見知っている―氏真のこの
言葉に、かつて駿河国の還付を
約束して掛川城から氏真を退去
させ、ついにその約束を果たす
ことのなかった家康としては苦
笑するしかなかったらう。

事務局より

① 歴史随想の募集・研究報告の依頼

幸い、報告希望の方が多く、二
月までは報告者は決まっていま
す。

三月は卒業論文発表会のため、
静岡大や静岡文芸大にお願いし
ていきます。幹事ならびに報告希
望者は小和田会長もし
くは事務局森田まで御
連絡ください。

事務局連絡先 電話・FAXとも
（〇五三）四四九―五七二一
森田香司

② 会費納入のお願い
会報に振り替え用紙を

2022年度支出の部

No.	科 目	本年度予算額	決算額	対前年比	内 訳
1	会場費	39,980	39,690	-290	教育会館 7 回／沼津市立図書館／ワー クピア磐田
2	例会案内・ 郵送費	50,000	27,634	-22,366	会報郵送代・葉書・切手等
3	会報印刷費	25,000	7,426	-17,574	インク、コピー代等
4	交通費補助	50,000	20,000	-30,000	7月例会（東京等遠方より）× 2
5	会誌編集刊 行費	350,000	265,952	-84,048	12号会誌印刷（別冊歴史随想編含む）・ 郵送・校正等
6	事務費	15,000	18,893	3,893	コピー・封筒・通信費
7	総会費	180,000	200,504	20,504	会場費、総会資料コピー、講師謝礼等
8	予備費	596,020	0	-596,020	
	合計	1,306,000	580,099	725,901	

同封しましたので、まだ会費を納入され
ていない会員は納入をお願いします。
紙数に余裕があったため、小林氏の歴史
随想を入れました。

2022年度静岡県地域史研究会決算書収入の部

No.	科 目	予算額	決算額	対予算比	内 訳
1	繰越金	871,742	871,742	0	前年度繰越金
2	会 費	424,000	432,000	8,000	総会 38 名、振込 59 名、過年度分 11 名分、 合計 108 名
3	書籍売上	10,000	42,000	32,000	会誌 42 冊
4	雑収入	258	0	-258	
5	合計	1306,000	1,345,742	39,742	

2023年度予算案支出の部

No.	科 目	本年度予算額	前年度予算額	対前年比	内 訳
1	会場費	37,230	39,980	-2,750	教育会館 4,900×1、39700×5/10 月産業経済会館 4,850/1 月労政会館 3,980/2 月三島 0/6 月アクティ ティ浜松 4,000
2	例会案内費	50,000	50,000	0	会報郵送・葉書・切手等
3	会報印刷費	25,000	25,000	0	インク・コピー代等
4	交通費補助	50,000	50,000	0	例会交通費(東京等遠方より)10,000×5
5	事務費	15,000	15,000	0	コピー・封筒・通信費等
6	総会費	115,000	180,000	-65,000	会場費、総会資料コピー、講師謝礼、テープ起こし等
7	会誌編集刊行費	200,000	350,000	-150,000	12 号会誌(別冊歴史随想を含む)印刷・郵送・校正等
8	予備費	715,770	596,020	119,750	
	合計	1,208,000	1,306,000	-98,000	

2023年度予算案収入の部

No.	科 目	本年度予算額	前年度予算額	対前年比	内 訳
1	繰越金	765,643	871,742	-106,099	
2	年会費	432,000	424,000	8,000	4,000×108 名(114 名—退会 者 6 名)
3	書籍売上	10,000	10,000	0	1,000×10
4	雑収入	357	258	99	
	合計	1,208,000	1,306,000	-98,000	

静岡県地域史研究会報
第251号

2023年11月5日発行

静岡県地域史研究会

会長 小和田哲男

事務局長 森田香司 (053)449-5711

会計担当 北村 啓 (090)4230-6530

〔会費納入先〕

北村啓気付TEL090-4230-6530

郵便振替口座 00880-3-63062

年会費 4000 円(次年度より 3000 円)

繰越金

765,643 円

(会計監査報告)

2023年9月9日 監査の結果、上記の通り相違ない
ことを認めます。会計監査 小川 勝 青木茂久

